



鶏 けいめい 鳴

〒221-0864

横浜市神奈川区菅田町2851

(電話 045-473-7191)

パウロの言葉

「キリスト・イエスに結ばれてわたしの協力者となっている、プリスカとアキラによろしく。命がけでわたしの命を守ってくれたこの人たちに、わたしだけでなく、異邦人のすべての教会が感謝しています」

聖書(ローマ書16章3～4節)

牧師 河合裕志

ローマ書の最終章ではいかにも手紙らしく目下ローマの教会にいる27名もの知人の名をあげて挨拶を記している。パウロはめざましい伝道の働きをして来た者であるけれどそれは彼単独の活動といったものではなく多くの人々の協力、手助けのあったことがうかがわれるというもの。

その中でもプリスカとアキラ夫妻の協力は大きく決して忘れられないものだった。奥さんであるプリスカの名が先にあがっているのは夫アキラ以上に協力的であったということか。パウロが紀元50年頃にアテネを去ってコリントの町にやって来た時、そこに住んでいたこの夫妻に出会った。彼らはローマ皇帝による、ユダヤ人はローマから退去せよ、との命令によりコリントに移住、すでにキリストを信じる者になっていた。パウロはこの出会いを感謝し、「職業が同じであったので、彼らの家に住み込んで、一緒に仕事をした。その職業はテント造りであった。パウロは安息日ごとに会堂で論じ、ユダヤ人やギリシャ人の説得に努めていた」(使徒言行録18章)。

パウロに対するこの夫妻の協力はどこに見られるか。①それはパウロが彼らの家に住むことが許されたこと。お陰で彼はこの町で1年半、ゆっくりと腰を落ち着かせて伝道に当ることができた。夫妻にはイエスの教え「旅をしていたときに宿を貸す」、が覚えられていたのだろう。

②夫妻は命がけでパウロの命を守ったこと。命がけとは命を捨てる覚悟で、思い切っていること。具体的には何をしたのか、よくわからない。真正面からイエスはメシア(救い主)と宣べ伝えるパウロら伝道者は常に反対者からの迫害・死の危険のうちにあった。そのような者を招き入れた家・者は攻撃の対象とされる。そんな中、夫妻はパウロを無事守り通した。彼らの勇氣、信仰と愛にパウロは深い感謝を表明せざるを得なかった。

三浦綾子の『銃口』に、タコ部屋から脱走して来た朝鮮人・金俊明を20日間にわたりかくまい無事に逃がす北森政太郎の話が出て来る。実話に基づくもののようにだけれどなかなか出来るものではない。それこそ北森は命がけで金さんを守った。私達は大きなことは出来ないけれど目下困っている人に少しでも手を伸べることが出来れば幸い。

集会案内

日曜礼拝：午前10時15分、日曜夕拝：午後6時
 子どもの教会：日曜日午前9時
 求道者会：日曜日午前9時40分
 中高青年会：日曜日礼拝後
 お話し会、卓球：水曜日午後1時～7時
 お祈り会：水曜日午前6時、午前10時、午後7時